KYUSAN JOURNAL

九州産業高校通信【九産ジャーナル】

AUTUMN
2021 OCT
No.5

誰にもまねできない

私の青春。

KYUSAN JOURNAL AUTUMN 2021 OCT No.5 2021年10月 発行：九州産業大学付属九州産業高等学校 〒818-8585 福岡県筑紫野市紫2-5-1 Tel.092-923-3030 Fax.092-928-4664 HP https://www.kyusanfukyusan-h.ed.jp

Interview

「たくさんの個性や価値観に触れて、見える世界が広がりました。」

私は九州産業高校に通って、中学校の時と比べて関わる友人が圧倒的に増え、いろんな価値観に触れることができていると感じています。毎日の学校生活を送る中で、友人の持つ考え方や思いを知ることは、私自身の世界を広げてくれます。2000人を超える大きな学校なので、元々人見知りなところもあって、入学当初は正直少し不安なところもありました。それでも、一人ひとりの個性がつくりあげるクラスの明るく、楽しい雰囲気が私を変えてくれました。今では不安は一切なく、いろんな人に積極的に関わっていこうとする新しい自分に出会えた気がします。先生たちも私たち生徒に寄り添い、親身になって高校生活をサポートしてくれます。多くの友人、先生方のおかげで毎日が楽しく充実していて、何より安心して高校生活を送ることができているのは本当に嬉しいことです。

私は吹奏楽部に所属していますが、部内にはハイレベルな授業を展開するスーパー特進クラスや特進クラスの部員、数多くの資格に挑戦する機械科の部員もいて、文武両道を徹底していこうという雰囲気があります。クラスでは感じることのできない刺激が吹奏楽部にはあり、放課後の部活動の時間も成長するための大事な時間だと思っています。目標はまずは九州大会に出場すること。もちろん、それ以上の結果が出るように、これからも励まし合いながら練習に励みたいと思います。

中学生の皆さんには残りの中学校生活を大事にしてほしいです。私が入学した頃は、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、長期で休校措置となったタイミングでした。楽しみにしていた高校生活のスタートで、入学式以降登校ができない、対面の授業も受けることができない中、不安もありましたが、その時に支えになったのは、中学校の友人や中学校生活の思い出です。これが心の支えとなったことは間違いありません。高校に入学してからも、中学校の友人とは連絡を取り合い、何気ない話や将来についてなど、たくさんの話をします。中学校の3年間は部活動に全力を注いだことで、たくさんのことを得ることができました。頑張った経験は財産になっていて、中学校生活で経験したことは高校生活でも生かされていると様々な場面で感じています。ぜひ、今しかできないことに挑戦して毎日を充実させて下さい。きっと私のように新しい自分に出会うことができる思います。

2年普通科　準特進クラス／鳥栖中学校出身　**井田 菜々美** さん

Q&A

Q. 高校生活で感じていること

A 個性ある先生方による、毎時間の授業は飽きることなく、楽しく受けることができています。全校生徒が多いのが本校の特徴ですが、その分先生たちも多く、どの先生も親身になって生徒のことを本気で考えてくださっていると感じています。この1年半の高校生活は、新型コロナウイルスと向き合う時間が多く、学校行事がなくなることもたくさんありましたが、クラスマッチや遠足、規模を縮小して開催された体育祭は、クラスの仲間と盛り上がることのできた貴重な時間であり、心がほぐれる時間でもありました。このような状況であっても、授業以外でみんなと1つのことをやることができるのは、本当に楽しいです。

Q. 九州産業高校を選んだ理由

A 部活動に力を注ぐことができる環境があったからです。私は中学校でやっていた吹奏楽を高校でも続けたいと考えていました。自分自身の演奏の技術を伸ばすことのできる高校を探していた時、九州産業高校のオープンスクールで吹奏楽部の演奏を聞くことができ、部員の演奏している姿に憧れを持って受験を決めました。私も吹奏楽部の一員になって、大きな舞台を目指したいと思えたのが、その当時の受験勉強の励みにもなっていたような気がします。

また、勉強面に関しても丁寧な学習指導や進路指導をしていると感じることができたので、3年間過ごす場所として安心して通うことができると思い、受験を決めました。残り1年半の高校生活で、部活動も勉強も今まで以上に充実した、満足することのできる学校生活を送っていきたいです。

あなたの九州産業高校の「ここがオススメ」を教えてください

01 同じ目標を持つ仲間と、常に目標を意識しながら勉強に励むことができる

中学生の時は、クラスの中で一人ひとりがそれぞれの目標を持って、毎日を過ごしている印象がありました。九州産業高校ではクラスごとに目標が設定されていて、その目標に向かって頑張ろうという雰囲気があります。私は準特進クラスに在籍をしていますが、西南学院大学や福岡大学の合格を目指すクラスなので、同じ目標を持った人たちが同じクラスにいるということが、日々の自分を鼓舞してくれています。同じ準特進クラスの先輩たちは関東・関西の難関私立大学にも合格をしているので、高い目標を常に意識しながら勉強に取り組むことができています。

02 中学校の時と比べて、より深い学びができ、充実した環境のもとで部活動もできる

私は総合的な探究の時間で「音楽とストレスの関係」をテーマに、自分自身で調べ学習を進めています。音楽を聞くことで人はどれだけストレスが軽減されるのか、データ収集やさまざまな論文を読んで、探究に励んでいます。まとめた内容はクラスで発表を行います。それぞれの探究発表を聞くことによって、自分自身の考え方が広がったり、新しい知識・興味関心が広がるのではないかと思うと、すごく楽しみです。通常の授業では得ることのできない総合的な観点から学ぶことにとても魅力を感じています。

また、本校では充実した環境で部活動に励むことができると思います。施設も充実していますが、何よりも部活動を指導される顧問の先生方の多くが、豊富な知識と経験を持っており、専門的な指導を受けることができます。常に的確なアドバイスをもらいながら部活動を行うことができるので、成長を感じやすくなっています。

03 交通アクセスが良く、通いやすいので時間を有効に使うことができる

私は鳥栖市に住んでいます。通学ではJRを利用していますが、20分ほどで学校のある筑紫野市(JR二日市駅)へ着くことができます。高校生活の貴重な3年間、時間はあっという間に過ぎていくと言われています。高校生活が折り返しに入った私自身、本当にその通りだと思っています。今までの毎日があっという間に過ぎたと感じていますし、これからの高校生活はもっとあっという間に感じるかもしれません。高校生活ではやるべきこと、やりたいことが中学校と比べると何倍も多くなるので、限られた時間を有効に使うことが大切だと思います。通学時間も3年間積み重ねれば相当な時間です。そういった点から考えると、とても通いやすい九州産業高校は、安心と便利さを強く感じさせてくれています。充実した高校生活を送ることができているのは、毎日の通学にも理由があるのかもしれません。

対談

先生×生徒

学ぶ、深める、創造する

―「総合的な探究の時間」での学び―

学習指導要領の改訂により、高等学校の「総合的な学習の時間」は、2022年度から「総合的な探究の時間」に変わります。本校ではこれに先がけ、今年度より「総合的な探究の時間」をスタート（1,2年生は教科担当制）。教科や科目を超え、さまざまなテーマにおける課題発見、そして探究活動を行っています。

今回は、1年生の「総合的な探究の時間」(以下「探究の時間」)を担当する佐藤拓哉先生と、佐藤先生の授業を受けている1年生の3人に、この授業での取り組みやそのねらい、印象について、対談をしていただきました。

コミュニケーションで深める学び

佐藤先生（以下「佐藤」）：高校から始まった探究の時間と、中学校での総合学習で、何か違いを感じますか？

山道蒼（以下「山道」）：中学校の授業は、考える道筋があらかじめ決められていたからさまざまな意見が出にくかったけど、高校の探究の時間は、テーマが与えられた先は自由なので、自分もいろんな意見を言えるし、他の意見を跳ね返すのではなく受け入れようと思いながら取り組んでいます。また、探究では、もともと知っていることもさらに深めていくので、教科の枠にとらわれず総合的な観点から見れておもしろいです。

福原実里（以下「福原」）：自分で考えて探究をしたり、プレゼンを作ったりするのは初めてだから、すごく新鮮だし、物事を深く考える機会ができて楽しいです。

吉村結菜（以下「吉村」）：自由度が高くて、自分のやりたいことができるから、やりがいがあります。

佐藤：他の授業でペアワークやグループワークをすることはあっても、そこではやることが最初から決まっているので、コミュニケーションの仕方や内容が限定されています。自由にコミュニケーションをとる場って、学校では休み時間以外だと意外と少ないんです。だから探究の授業で、目的に応じて自由にコミュニケーションを取る時間は大切なのかなと思っています。

▲福原実里さん（1年／大野東中学校出身）
地域探究では自分の住む街の魅力を再発見できたという。探究を通して、相手に伝えることの難しさを感じながらも、楽しみながら取り組んでいる。

▶山道蒼さん
（1年／筑紫野中学校出身）
世界から紛争がなくならない理由について探究し、国際社会について深く学びたいと話す。将来は国際関係の仕事に携わりたいと考えている。

カギは「抽象化」する力

佐藤：これまで、「自分を語るときに欠かせないもの」を中心とした自己紹介や、コンビニの問題点を分析し一般化する「コンビニ議論」などに取り組んできました。現在は「地域探究」で、住んでいる地域の課題を解決するための公共事業を考案したり、ゆるキャラのデザインをしたり。吉村さんと福原さんのチームのゆるキャラは、特に完成度が高かったですね。

福原：「大野城といえば」の要素をとにかく詰め込もうという気持ちでデザインしました。かわいらしく見えるように全体を丸くしたのがポイントです！

佐藤：これはすごく良いデザインですよ。そもそもこの活動の意図は何だと思いますか？

吉村：地域の魅力を抽象化して、それを相手に簡潔に伝えるためでしょうか。

山道：キャラクターにすることで、分かりやすく伝えるため？

佐藤：そうですね。物事を抽象化して考えることは大切です。「一般化」と「抽象化」ってすごく結びつきが強くて、具体的にしすぎると、他の人には当てはまらないものが出てくる。だから「抽象化」を一つのカギとして取り組んでもらいました。それと特に「デザイン」をしてほしかったんです。今まで、自分の考えを文章にする活動は多かったと思います。そうするとだんだんみんな、どう書いたら良いものになるかという正解を求めるようになってきて、同じような文章になりがちです。「デザイン」だと、それぞれの個性や考えがうまく抽象化して出るかなと思いますね。

▲吉村さんと福原さんのチームが「地域探究」の中で考案したゆるキャラ。大野城市のマークや名物グルメのモチーフがふんだんに取り入れられている。

「創造」の時代を生きる

佐藤：これからは「正解の無い問い」に立ち向かっていく力が必要です。「Society5.0」※って覚えてる？これからの時代は「情報社会」を超えて……？

山道：AIなどが発展活用される「新たな社会」ですね！

佐藤：そうです！これからは、多くの分野で人工知能が活用される時代になってくるので、人間に求められる能力は「創造する」力です。AIは命令に従って仕事することはできても、その目的自体を生み出すことはできません。だから人間にしかない「自己決定能力」を高めるために、「創造・分析・評価」の力が社会で求められていて、それを身につけてほしいから探究の時間ができたんです。そこで、自分たちでやったことを分析・評価するために、授業では自分たちの手で評価基準を決める「ルーブリック評価表」を作ってもらいましたね。自分たちで評価基準を作るメリットって何だと思う？

福原：発表するときに気を付けるポイントなどを意識できるので、よりよい形で発表できると思いました！

吉村：でも評価する基準（横軸）を細かく決めるのが難しかったです。評価に上手く段階をつけるのも…。

山道：僕は評価するポイント（縦軸）を決めるのに苦戦しました。自分の苦手なところだけを意識してしまうと、他の人が同じように評価できる表にならないから、そこに気を付けました。

佐藤：そうだね。誰でも使える評価表にするという点も難しい。来週は「地域探究」の発表会がありますので、実際にこれを使ってみて、再検討をしてもらえればいいなと思います。

	A	B	C
スライドの工夫	読みやすい文章で内容が具体的でよかったです。写真やフォントの色のコントラストがいい感じだった。	読みやすい文章で内容が具体的でよかったです。写真やフォントの色のコントラストがいまいちだった。	読みやすい文章で内容が具体的でよかったです。写真やフォントの色のコントラストがよくわかりにくかった。
発表の仕方	声が良く聞こえてジェスチャーも多くて表情がいい!!	声は良く聞こえるけどジェスチャーがあまりなくて真顔。	声が小さくてジェスチャーもなくて真顔。
チームワーク	話し合いが均等で発表バランスいい!	話し合いが均等だけど話し合いが上手くいっていない。	話し合いがいつもかたよっていて話し合いが上手くいっていない。

▲ルーブリック評価表
実際に生徒が作成したルーブリック評価表。
縦軸が評価項目、横軸は達成レベルとなっている。

総合的な探究の時間の「これから」

佐藤：今は先生から与えられたテーマで探究をしていますが、ゴールは「自己探究」です。自分の追究したいことを掘り下げて、卒業論文のような形にしたいですね。生きていく中で常に課題意識を持って、それを愚痴とか、頭の中だけで終わらせるのではなく、解決に向けたアイデアを実践し、新しい価値を生み出せる人間になるっていうのがゴールだと思います。みんなが社会に出たときに、そういう人になれるような授業になったらいいなと思っています。それから「進路探究」。何のために、何を学ぶのか。それを学んだ先で何にいかせるのかというのも考えて、探究してほしいです。「自分が行った道を正解にしてほしい」という思いもあります。目標とする大学に進学することがゴールではなく、その先を考える。そのためにはもちろん教科の勉強も大事です。探究って、そのうち全教科の内容に繋がっていくものだと思うんです。だから、受験科目に関わらず多様な知識技能を得ることや、座学的な授業も大切にしてほしいなと思います。

▶吉村結菜さん
（1年／大野東中学校出身）
今関心を持っているのは「新しいストローの開発」。SDGsを通して世界の現状を学び、様々な視点から物事を考えるようになったと実感。

◀佐藤拓哉先生
（1年普通科進学クラス担任）
生徒はいつも頭の中に「？」と「ひらめき」を持ってほしい。「？」を解決するために、多角的に考える視点も大切だと伝えている。

※「Society5.0」は、未来社会のキャッチフレーズ。
科学技術基本法に基づき、5年ごとに改定されている科学技術基本計画の第5期として登場した。

交通アクセス

西鉄紫駅より徒歩1分

JR二日市駅より徒歩6分

交通アクセスの良さは大変好評。
通いやすさの満足度は非常に高くなっています。
遠方でも時間距離は短く、通学のストレスはありません。

部活動数

体育部 16部

文化部 17部

部活動参加者数は1,000名を超えます。
放課後は活気にあふれる日常が広がっています。

一人ひとりが望む、次のステージに向かって過ごす3年間。限られた時間を充実させる教育環境が整っています。

「交通アクセスが良い」のは本校の魅力のひとつ。「進路実績が良い」と「学力の向上に期待ができる」を含めた3つの魅力は本校を選んだ理由として揺るがないものになっています。西鉄紫駅に繋がる専用道も整備され、安心・安全に通うことができます。在校生にとって、この利便性の高さは3年間の高校生活を過ごすうえで、大事なポイントになっているようです。通学時間が短くなれば、その分自分自身の時間にも余裕が生まれ、充実した高校生活に繋がります。

多くの生徒が集う学び舎で、それぞれが目標に向かって充実した時間を過ごします。学校満足度の高さも進路実績の飛躍も本校の魅力です。

九州大学・大阪大学などの難関国立大学をはじめ、関東・関西の難関私立大学にも多数合格しています。また、西南学院大学や福岡大学などの地元有名私立大学の合格者数も着実に伸ばしており、現役合格を目指した進路指導が結果としてあらわれています。非常に高い合格現役率は本校の強みです。

また、7年連続就職内定率100%は本校の就職指導の大きな特徴です。例年、機械科の約7割が就職を希望します。機械科では本校卒業後に即戦力として活躍できる人材育成に力を注いでいます。

学校満足度

95%

本校で過ごす3年間を振り返り、卒業時に生徒と保護者に調査をした結果です。毎年非常に高い満足度となっており、本校の学校生活の充実度を示しています。

出身中学校

149校

本校は交通アクセスが整っていることもあり、近郊だけでなく遠方の中学校出身者も多く、どこからでも通いやすいのが魅力です。

全校生徒数

2,033名

教員は140名おり、2000名を超える生徒も一人ひとりサポートをしています。多くの仲間と価値観を共有し、様々な考え方を学んでいくことができる環境です。

就職実績

就職内定率 7年連続 100%

求人数 1,558件

6年連続で求人数が1000件を超え、
令和3年度の一人当たりの求人倍率は約27倍となっています。

資格取得者数総数

3,601種

多くが工業分野の資格取得数ですが、
実用英語技能検定2級以上にも191名合格しています。

西南学院大学・福岡大学

合格者総数 609名

（西南学院大学186名、福岡大学423名）

合格現役率 99%

九州産業大学にも256名合格し、
付属高校推薦入試を利用して毎年多くの生徒が
九州産業大学に進学しています。

進路実績

国公立大学 221名合格 ※大学校含む

合格現役率 98%

私立大学 1,445名合格 ※四年制大学

合格現役率 96%

九州大学16名(全員現役合格)をはじめとし、難関国立大学に合格者を多数出しています。
また、関東・関西の難関私立大学にも多数の合格者が出ており、年々進路実績が伸びています。
非常に高い合格現役率は、本校の進路指導の強みです。